

暴走車から 児童生徒を守る対策は

河部議員 暴走車両から子どもたちを守るための対策が必要である。児童生徒の登下校の安全対策として、各学校の対策（危険箇所
の把握）と市としての対策を伺いたい。

また、警察署及び土木事務所との連携を密にしているか伺いたい。

教育長 児童生徒の登下校時の安全を確保するため、各学校では、登下校時における教職員による交差点や危険箇所での安全指導のほか、集団登校の集合場所までの送迎を保護者をお願いしている。また、教職員と保護者が通学路を巡回し、危険箇所の通行を禁止するなど、地域の実態に即した様々な取り組みを実施している。
市としての対策は、スクールガードを全小学校に配置し、登下校時の児童生徒の安全確保に努めている。さらに、青色回転灯搭載車による下校時間帯の通学路の巡回活動を実施している。

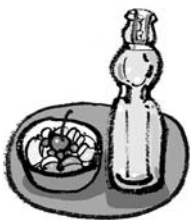
危険箇所の把握については教職員が通学路を確認するとともに、



児童の登下校を見守るスクールガード

児童と一緒に下校しながら、危険箇所を確認している。また、スクールガードや青色回転灯搭載車の巡回活動を通して、危険箇所の把握に努めている。

警察・土木事務所との連携については、学校や自治会などから通学路に関しての要望があった場合、状況確認のうえ要望するなど、連携を図っている。また、真岡地区学校警察連絡協議会が組織されているので、暴走車対策についても協議していきたいと考えている。



常任委員会の 審査から

総務

▼陳情第7号について

【委員長報告】

陳情の趣旨は、第一点として再生可能エネルギー及び節電、その他の省エネルギーの推進をエネルギー政策の中核に据えること。第二点として原子力発電の比率を縮小し、完全廃止を最終目標とすること。第三点としてエネルギー政策については、国民の積極的な参画を求めること。以上の三点について、国に対して意見書を提出してほしいとするもので各委員からの意見を申し上げると、「東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射能汚染は甚大な被害をもたらす、現在においても収束に至っていない。再生可能エネルギーを普及させ、原子力発電は縮小のうえ、廃止をすべきではないか。」との陳情の趣旨を肯定する意見もあったが、「資源のない日本にとって、原子力は必要であり、原子力事故を起こさないようにするための万全の対策を行うことが重要

文教

▼議案第47号について

▼議案第48号について

問 耐震補強が必要な建物の棟数及び未着工棟数は何棟あるか。
答 耐震補強が必要な建物は四十四棟で、うち未着工の建物は二十棟である。

問 本工事における入札の応札業者数、予定価格、落札額はそれぞれどのくらいか。
答 真岡西小学校の応札業者は五共同企業体、予定価格は五億二千二百八十六万円、落札額は四億九千六百七十万円、久下田中学校の応札業者は四共同企業体、予定価格は二億七千九百九十九万円、落札額は一億九千六百七十万円である。

問 応札した業者は、全て市内の建設業者か。
答 この入札は事後審査型条件付一般競争入札で、市内の業者建築Aランクを条件としている。

その結果、本陳情は、「願意の趣旨は十分理解できるが、願意どおり認めることは難しい」ということから、全員異議なく、「趣旨採択」とすることに決した。